

第

3

章

課 題

1 地域の課題

地域福祉計画の特徴は、解決すべき生活上の課題を一番よく知っている市民の方の積極的な参加によって策定するという点です。

そこで、市民参加により地域の抱えている様々な生活課題を明らかにし、その解決策を探るため、「地域懇談会」「地域福祉計画策定に係る意識調査」「NPO法人・ボランティア団体等へのアンケート」を実施しました。

(1) 地域懇談会

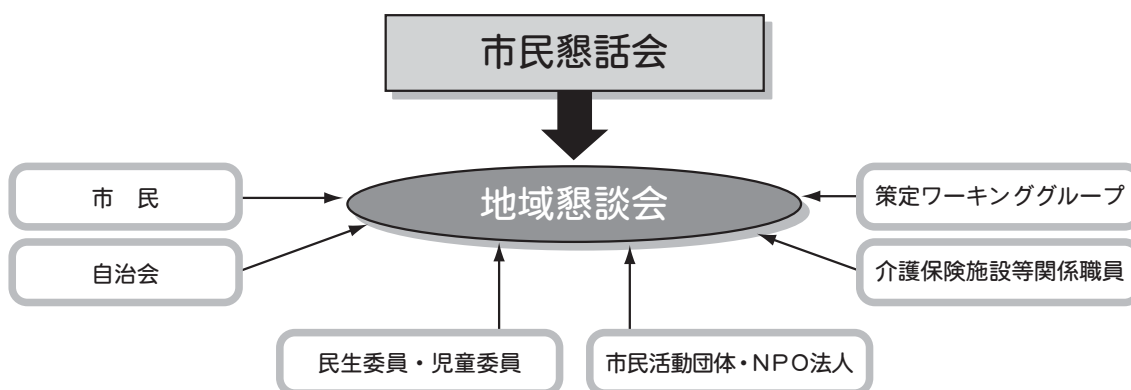
① 目的

平成17年度において、「住み慣れた地域で安心して充実した生活を送るためには、どうすればよいか」をみんなで考え、意見を出し合って、鶴ヶ島らしい地域福祉計画をつくるために、市内8小学校区ごとに地域懇談会を実施しました。

② 地域懇談会の設置

この地域懇談会は、市民懇話会委員が中心となり、策定ワーキンググループ委員とともに各地域に分かれて開催しました。

自治会役員、民生委員・児童委員、市民活動団体、NPO法人、一般市民の方など多数の参加をいただき、ワークショップの手法を使いながら地域の課題や解決策について、熱心に議論を積み重ねました。



③ 地域懇談会の内容

各地域懇談会において、地域住民間の関係の希薄化が大きな課題であり、「地域で支え合い、助け合う」ための前提として、地域住民がいつでも気楽に集い、交流できる場が必要という意見が出されました。

地域コミュニティ再生こそ、地域福祉の第一歩であり、防犯、防災、子育て支援、高齢者・障害者支援などにも通じるとの認識で一致したところです。

	小学校区	場所	実施回数	参加人数
1	第一小・藤小学校	市役所	5回	85人
2	第二小学校	南公民館	5回	75人
3	新町小学校	西公民館	5回	97人
4	杉下小学校	東公民館	5回	53人
5	長久保小学校	北公民館	5回	77人
6	栄小学校	富士見公民館	7回	204人
7	南小学校	大橋公民館	5回	72人
8	第一小学校(藤小区と統合)	女性センター	1回	12人
計			38回	675人

- ・ 自治会の加入者が減っている
- ・ 高齢者や障害者の情報が把握できない
- ・ ゴミ出しのルールが守られていない
- ・ 高齢者の世帯では、ゴミ出しが大変



杉下小学校区地域懇談会



南小学校区地域懇談会



第一小学校・藤小学校区地域懇談会

- ・ 子どもの登下校が心配
- ・ 子どもが安心して遊べる場が少ない
- ・ 自然の中の遊び場が失われている
- ・ 子育てのストレスを抱える親の交流する場が少ない



新町小学校区地域懇談会



南小学校区地域懇談会

- ・ 障害者が働ける場が少ない
- ・ 老人会加入者が減少し、閉じこもりがちな高齢者が増加
- ・ 高齢になると自動車の運転、自転車も危険となり移動手段が確保しづらい

地域懇談会で出された地域の課題とその解決策(まとめ)

・地域の方々が自ら地域の課題とその解決策を出し合ったもの

《第一小・藤小学校区》

テーマ	課題	課題の解決策等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の輪が崩れている ・身近に語り合える場がない ・自治会館の活用方法を検討する必要がある ・30代40代の方が自治会に無関心である 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会館の有効活用を検討 ・学校の余裕教室の使用検討 ・地域の課題を共有する場としてサロンを開設
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・近所で緊急時の連絡先等の情報がない ・個人情報保護が民生委員や自治会活動の障害に ・子供達の安全（防犯） 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の援助体制づくり ・子供の視点にたった地域の安全マップづくり ・挨拶を交わすなど大人と子供が親しくなる
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会未加入者のゴミ出しの問題（清掃当番）がある ・ゴミ出しのルールが守られていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋に班名と名前を記入する
障害者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者とのコミュニケーションが取れていない ・手話を学習してほしい ・地域で障害者の就労の場が少ない ・障害者学級が整備されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者学級との交流の機会を増やす ・障害児サークルの支援 ・養護学校に通学する子供達が地域のイベントに参加しやすい環境づくり ・地域の学校に通学できる体制づくり
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の保護者の交流する場がない ・子育ての孤立化がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に集まれる場づくり ・子育てボランティアへの支援（学校等の場所の提供） ・お母さんの悩みを相談できる場づくり

《第二小学校区》

テーマ	課題	課題の解決策等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会離れ ・自治会活動に差がある ・自治会会員の状況が把握しづらい ・子供会の参加者が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> ・班名簿を作成する（名前と住所） ・自治会活動の先進例や成功例を行政が情報提供 ・自治会活動の活性化を図る
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会主催の防災訓練への参加率が低い ・障害者や高齢者など助けを必要とする人の情報把握ができない ・不審者情報の共有化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワンワンパトロール」子供見守り隊の立ち上げ ・子どもSOSの家のマップを地域住民に配布する ・防災無線の活用（不審者情報や子供の下校案内） ・不審者情報の窓口を一本化
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しのルール違反 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋に自治会の班ごとに番号を記入
障害者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体が別々に活動し、まとまらない ・安定した就労環境にない ・通学区の学校に障害児学級がない ・通学の送迎義務への負担が重い 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体の連携を図る ・障害者作業所の連携（作業所間を移動できる仕組み） ・障害者喫茶を支援する（PTA会議などで使用） ・障害児学級の整備を図る ・障害児にボランティアを付ける
高齢者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者が心配である ・閉じこもりがちな高齢者への支援 ・孤独な高齢者が増加傾向にある ・老人会加入者が減少している 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡システムづくり ・地域巡視のシステム化（自治会、郵便局、ガス会社等） ・安全な散歩コースをつくる ・趣味や軽い運動など身近に集まれる場づくり

《新町小学校区》

テーマ	課題	課題の解決策等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニケーションが不足している ・子どもの集団遊びが減少している 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの場として、旧新田土地区画整理事務所（土地・建物）の有効活用 ・地域住民で公園の活用方法を検討する ・自治会、老人会、子供会、学童保育等の連携 ・健康づくりで介護予防と地域のコミュニケーションづくり
安全 安心	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者の安全 ・地域の防犯・防災・非行防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で主体的な取り組みをする
子育て 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が子育てする上で将来に不安を持っている ・障害をもっている子の学びの場 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流の場をつくり、地域で子育て支援（旧新田土地区画整理事務所の有効活用）
高齢者 障害者 外国籍 の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しが大変な人がいる ・老人会の高齢化により、加入者・行事の参加者が減少 ・外国籍の人が地域に溶け込めない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やすらぎ学級」（高齢者学級）の定員を増やす ・元気に過ごすために、様々な場に参加し学ぶ ・地域に高齢者サロン開設（気軽に集える場） ・公民館等で日本語教室の実施

《杉下小学校区》

テーマ	課題	課題の解決策等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に気軽に集まれ、話ができる場がない ・自治会館が使いにくい。（自治会館の開放） ・団塊の世代、働いているお父さんの地域参加 ・転入者や集合住宅の居住者の孤立化 ・コミュニティ協議会の機能と役割が不明確 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会館の活用方法の検討（バリアフリー化も含む） ・子供達と高齢者の交流の場づくり ・杉下小学校の余裕教室の利用 ・魅力あるモデル自治会をつくる ・コミュニティ協議会の活用
安全 安心	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしや高齢者の安否確認が必要である ・障害者や高齢者など助けを必要とする人の情報がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・防犯対策のマップづくり ・地域防災の仕組みづくり（自治会員でない人も参加） ・地域で防犯パトロール
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しのルール違反がある ・地域が汚い（ゴミの清掃、有害ピラ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しのルール違反を調査し、対策を検討する ・地域で行うゴミ拾い、有害ピラの撤去 ・散歩の時などにゴミ袋持参
子育て 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の居場所、健康的な遊びをしていない ・子供と大人の触れ合う場が少ない ・子育てに悩んでいる家庭支援が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の居場所づくり ・自治会館を利用し、中学生や高校生と一緒に遊ぶ場 ・高齢者からの伝承 ・若い世代が安心して子育てができる環境づくり

《長久保小学校区》

テーマ	課題	課題の解決策等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニケーションがない ・自治会加入者が減少している（メリットがない、会費・役員の負担） ・気軽に集まれる場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会でお茶の会を開く ・自治会館を有効利用する（利用手引き作成、有料化） ・地域で挨拶を奨励する
安全 安心	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者や障害者が把握できない ・災害時の連絡・伝達体制が不備である ・防犯情報が学校やPTAには届くが地域に届かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者の居住地を地図にする ・連絡ネットづくり（学校・自治会・子供会・学童等） ・防犯パトロール・見守りづくり ・自治体単位で防災訓練を工夫する
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会未加入者のゴミ出しの問題（清掃当番） ・ゴミ出しの分別や指定日のルール違反がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋に班名・氏名記載 ・自治会未加入者への負担金
子育て 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての悩みなどの相談相手がいない ・子供の安心して遊べる場・居場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のボランティアで一時預かり ・自治会で子供会を支える（夏祭りなど）

《栄小学校区》

テーマ	課題	課題の解決策等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 自治会加入の促進を図る 自治会のあり方の検討が必要である。 団塊の世代の生きがいづくり。 身近な支え合いに地域通貨が役立つ コミュニティ協議会で自治会間の協力関係をつくる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 若葉駅通りを利用したフェスティバルの実施 地域の見守り隊グループをつくる 地域の問題を話し合うネットづくり ボランティア活動の感謝を表す方法として地域通貨を活用する 企業と市民が協働したイベントを開催する
生きがい	<ul style="list-style-type: none"> 定年後の生きがいを見つける 団塊の世代や元気な高齢者が持っている知識や技能の発掘が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 既存のサークル団体、活動内容について情報を提供 シルバーパワーを活用する ヤング・オールドによる「遊ぶ・学ぶ・創る会」を発足 既存のサークル団体、活動内容の情報を広く提供
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護等で支援を要する人の情報が不足している 子供だけでは公園で遊ばせられない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域安全マップづくり 防犯パトロールの実施。(わんわんパトロール、散歩パトロール)
環境	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のゴミ出しに負担がある ゴミ出しのルール違反がある 	<ul style="list-style-type: none"> 分別のやり方の工夫、文字を大きくする 高齢者のゴミ出しを手伝う 公園のゴミ箱の撤去
高齢者障害者支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な方を見つけ、どう社会参加させるか 地域に誰でも、いつでも参加できる場がない 障害者の就職支援(精神障害者の作業所がない) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で高齢者の生活支援(民生委員との連携) 空き教室を利用し、集いの広場づくり 市民活動推進センターに生活支援の談話室をつくる
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 子供を安心して遊ばせる場が少ない 自然の中の遊ばせる場が失われている 病気の時、土日、夜間に預かってくれる所がない 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に遊びのできる場所として、余裕教室、公民館、児童館を利用する。 ボランティア・NPO等の協力、行政の支援が必要

《南小学校区》

テーマ	課題	課題の解決策等
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 子供会がない、老人会がない地区がある 夏祭りがなく、市民体育祭に参加していない 大人と子供が集うにはどこに視点を向けるか 隣近所のコミュニケーションがない 地域をつなげる地域通貨の検討(無償ボランティアは頼みづらい) 	<ul style="list-style-type: none"> 南小学校の校舎裏のプレハブ教室を利用し、気軽に集える場づくり 自治会館を有効活用する 子供達とグランドゴルフを実施する 地域をつなげるツールとして地域通貨の検討
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害者の情報が把握できない どろぼうや不審者が多い 地域・自治会の防犯、防災対策 	<ul style="list-style-type: none"> 朝夕、下校時の犬の散歩を実施 自転車や家に防犯ステッカーを付ける 地域の安全は自分たちで守る意識づくり
高齢者障害者支援	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に地域の情報が伝わらない 家に閉じこもりがちな高齢者への支援 介護予防の受け皿が求められている 障害者の支援に地域としてどう目を向けるか 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者と交流の機会をつくる 徘徊対策として地域のネットワークづくり 保健センターを活用し、介護予防対策を実施 相談できる場づくり
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 世代を超えて集まれる場 子供が安心して遊べる場(原っぱ、空き地) 小学生の一時預かりの場 	<ul style="list-style-type: none"> 子供達への声かけで挨拶ができるようになる 自治会館を利用した地域と子供たちの交流の場 地域で子供を育てるという意識

(2) 地域福祉計画策定に係る意識調査

① 目的

市民の地域福祉に関する認識、要望、意見等を把握し、地域福祉計画策定の基礎資料を得るために実施しました。

② 調査の対象

15歳以上90歳未満の市民1,500名を無作為に抽出しました。

③ 調査期間

平成16年3月5日～3月19日

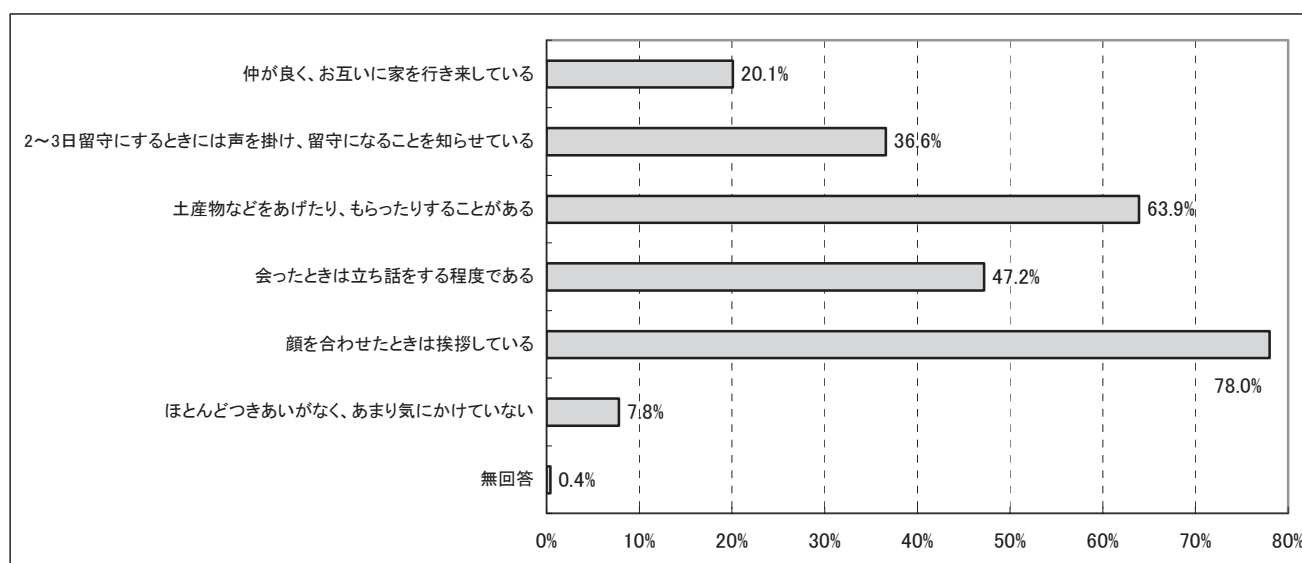
④ 回収数

718件(47.9%)

⑤ アンケート結果の概要

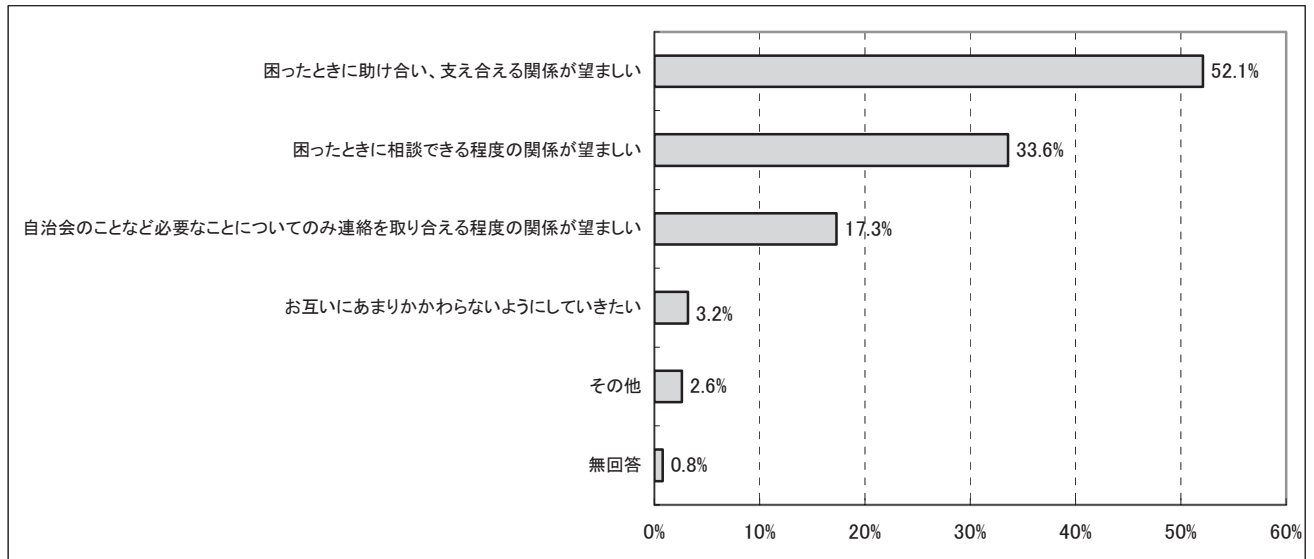
◎ ご近所とのお付き合いについてお聞きします。(複数回答可)

ご近所との付き合いの程度(現状)については、「顔を合わせたときは挨拶している」との回答が78.0%と最も多く、「土産物をあげたり、もらったりすることがある」63.9%と続いています。



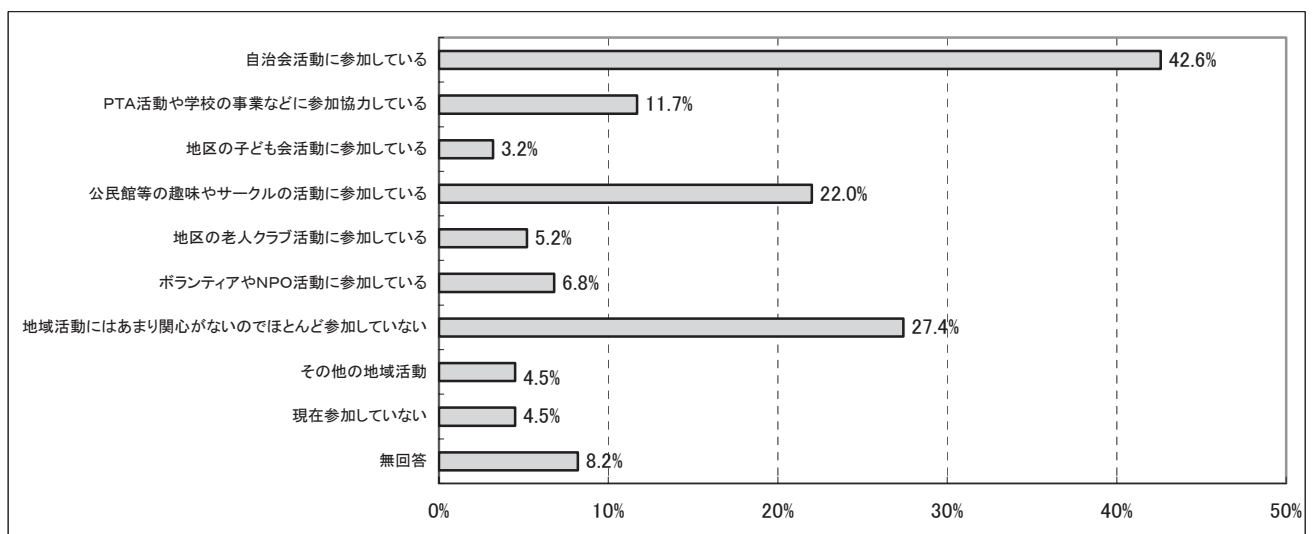
◎ ご近所付き合いについて、どのような関係が望ましいと思いますか。
 (複数回答可)

望ましいご近所との付き合いのあり方については、「困ったときに助け合い、支え合える関係が望ましい」との回答が52.1%と最も多く、「困ったときに相談ができる程度の関係が望ましい」33.6%と続いています。



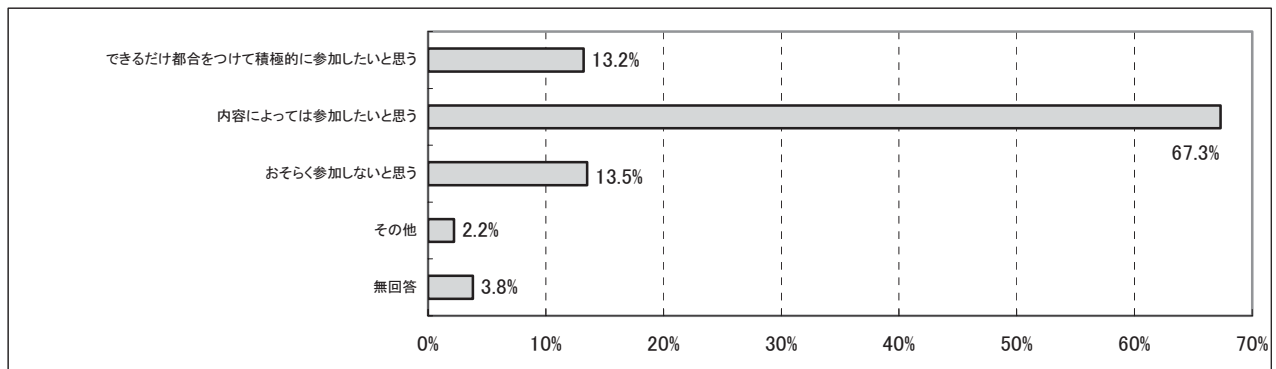
◎ あなたは現在どのような地域活動に参加していますか。(複数回答可)

地域活動への参加状況については、「自治会活動に参加している」との回答が42.6%と最も多く、「地域活動にはあまり関心がないのでほとんど参加していない」27.4%と続いています。



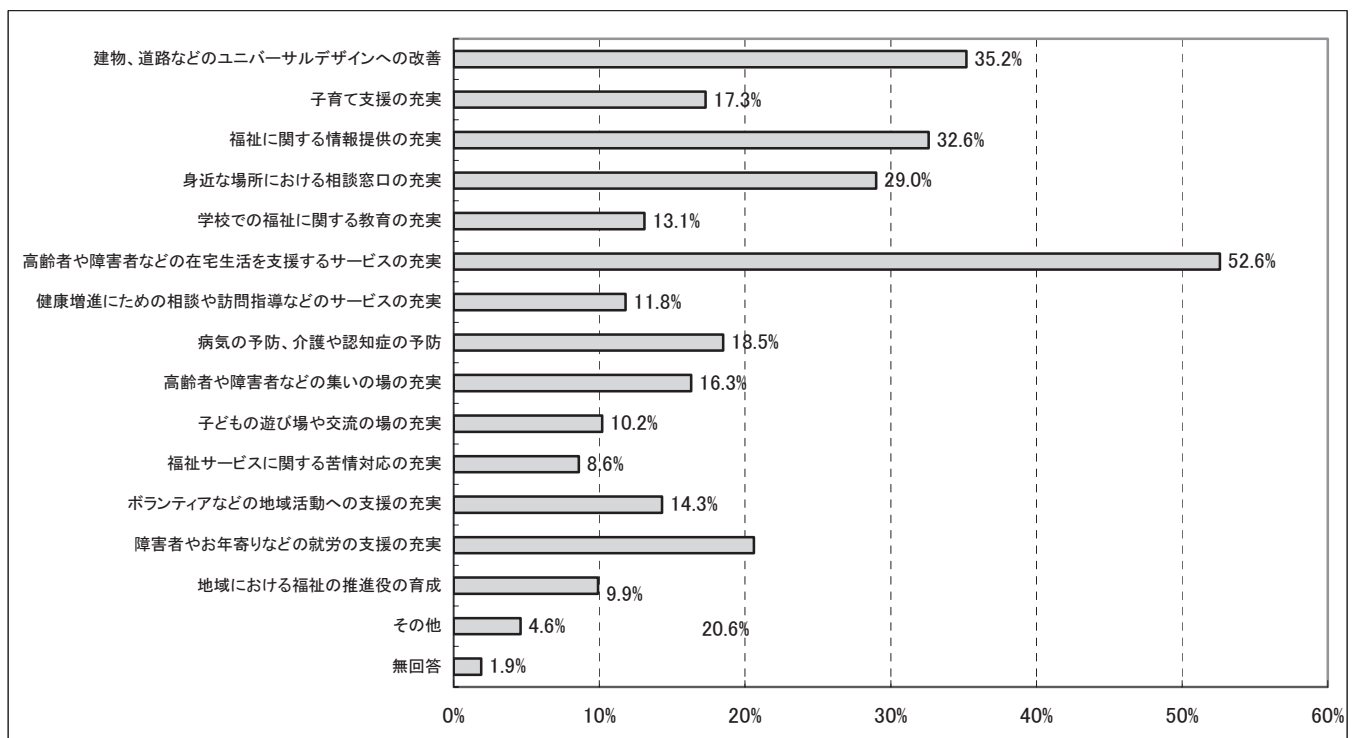
◎ 前質問で選んだもの以外に地域活動への参加の依頼があった場合、あなたはどのようにしますか。（あてはまるもの1つ）

現在参加していない地域活動への参加の依頼があった場合の対応については、「内容によっては参加したいと思う」との回答が67.3%と最も多く、「できるだけ都合をつけて積極的に参加したいと思う」13.2%を加えると80.5%と地域活動への積極的な参加意識が伺えます。



◎ これからの福祉について、市としてどのようなことを優先して取り組むべきだと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

これからの福祉について市が優先して取り組むべき事項については、「高齢者や障害者などの在宅生活を支援するサービスの充実」との回答が52.6%と最も多く、「建物、道路などのユニバーサルデザインへの改善」35.2%と続いています。



(3) NPO法人・ボランティア団体等へのアンケート

① 目的

地域福祉推進の一役を担うNPO法人・市民活動団体の要望、意見等を把握し、地域福祉計画策定の基礎資料を得るために実施しました。

② 調査の対象

市内に事業者を置くNPO法人（14団体）及び市民活動団体等（42団体）に郵送しました。なお、市民活動団体については、「つるがしまボランティアまちづくりセンター」（鶴ヶ島市社会福祉協議会）の登録団体としました。

③ 調査期間

平成18年7月5日～7月31日

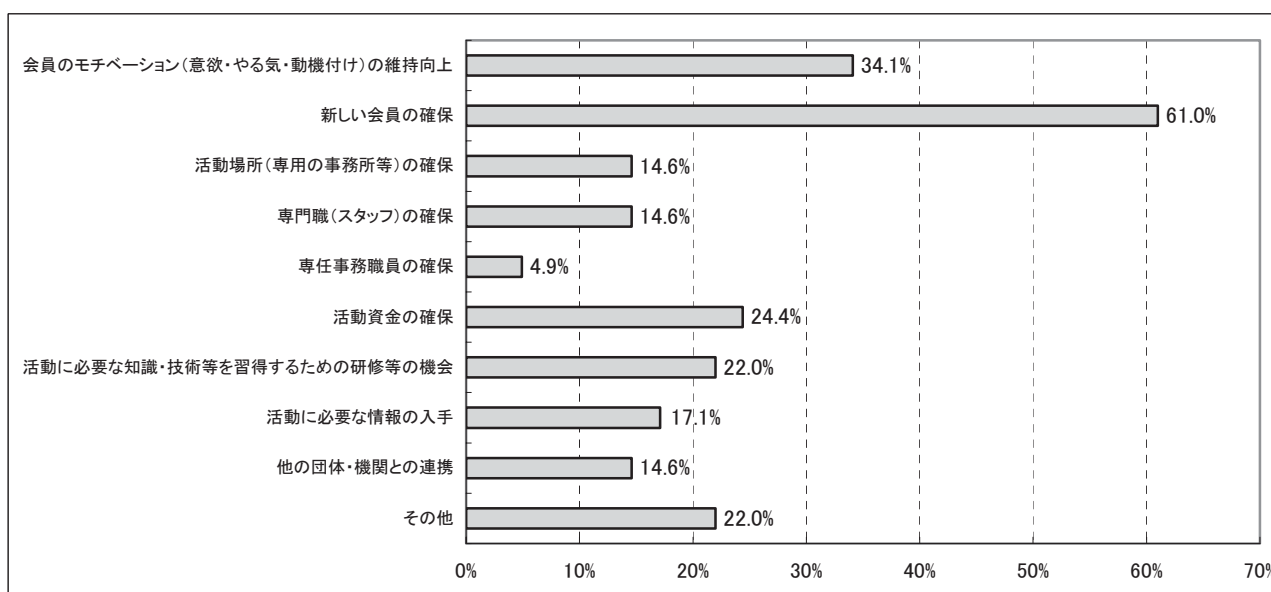
④ 回収数

41件（73.2%）

⑤ アンケート結果の概要

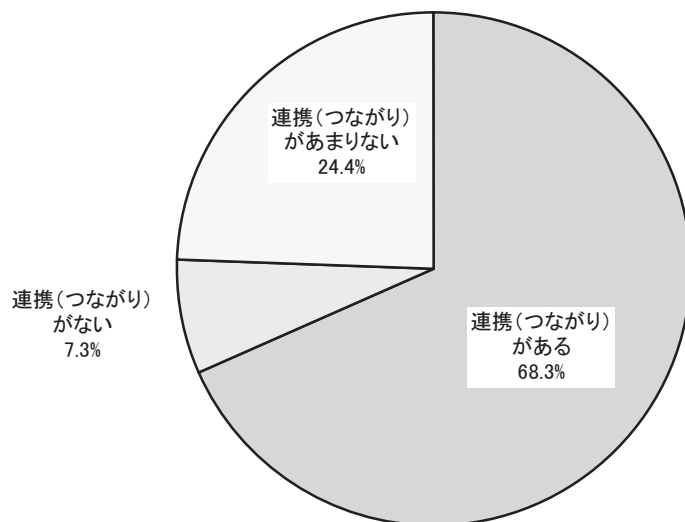
- ◎ 団体がより一層活発に活動するうえで、何が課題になっていますか。
（あてはまるもの3つまで）

団体活動の課題については、「新しい会員の確保」との回答が61.0%と最も多く、「会員のモチベーションの維持向上」が34.1%と続いています。



◎ 地域との連携（つながり）についてお聞きします。

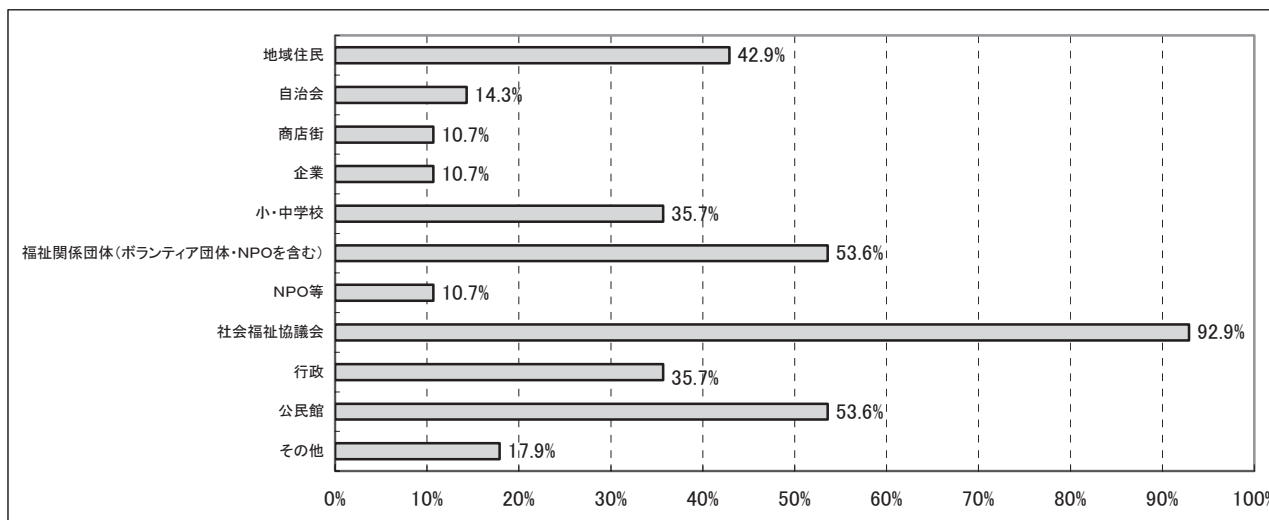
地域との連携については、「ある」との回答が68.3%と最も多く、「あまりない」24.4%、「ない」7.3%と続いています。



◎ 前質問で「連携がある」を選択した方にお聞きします。

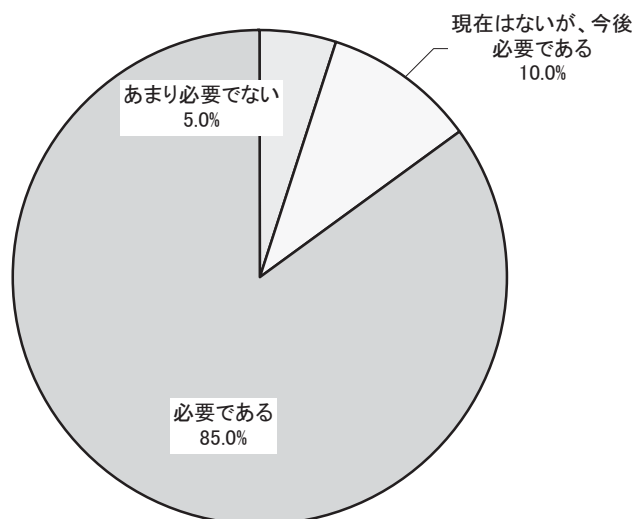
地域にあるどのような組織・団体（社会資源）と連携をしていますか。
（複数回答可）

地域との連携については、「社会福祉協議会」との回答が92.9%と最も多く、「福祉関係団体（ボランティア団体・NPOを含む）」及び「公民館」が同率で53.6%と続いています。



◎ 地域にある組織・団体との連携は必要だと思いますか。

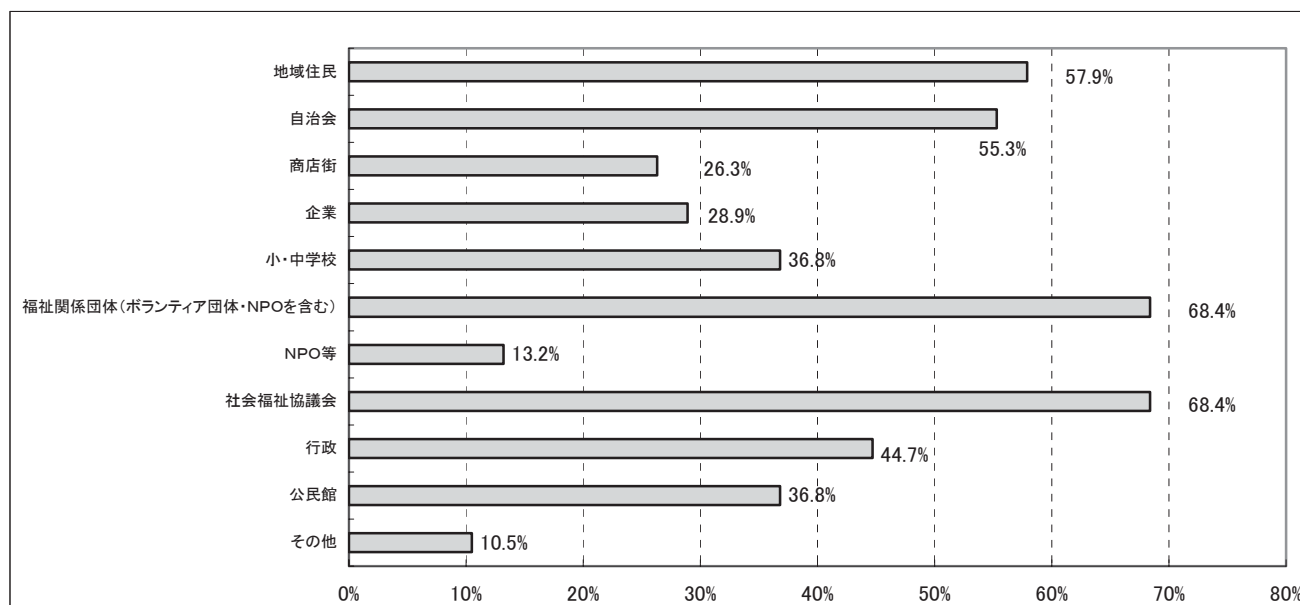
地域にある組織・団体との連携については、「必要である」との回答が85.0%と最も多く、「現在はないが、今後必要である」10.0%、「あまり必要でない」5.0%と続いています。



◎ 前問で「必要である」「今後必要である」を選択した方にお聞きします。

地域にあるどのような組織・団体等（社会資源）と連携する必要があると思いますか。（複数回答可）

地域にある組織・団体との連携については、「福祉関係団体」「社会福祉協議会」との回答がそれぞれ68.4%と最も多く、「地域住民」が57.9%と続いています。



◎ 地域における福祉に関する活動のあり方について、日頃の活動を通しての自由記述（地域福祉に関するものの要約）

- ・地域福祉計画では、非営利組織の活動の役割を、限られた地域資源として、位置付けてほしい。
- ・地域に役立つ仕事をしていきたいと考えているので、広報活動をしてほしい。活動内容を市民に周知してもらえる情報伝達の手段がほしい。
- ・地域の子ども達との関わりや世代を超えた交流など、地域の協力を得ながら活動に生かしてほしい。
- ・公共的サービスは、行政のみならず地域共同体が創り出すサービスも含まれている。市民一人ひとりが自覚し、市民相互の理解と役割分担が必要だと考える。
- ・地域のボランティア協力がなかなか得られない。どうしたら得られるのか。
- ・NPO活動が活発になっている現在、有償の福祉活動に対する捉え方も多様になっていく。
- ・社会福祉協議会の役割は重要であり、地域住民と行政のバランスをとるポジションを期待する。
- ・社会福祉協議会の活動をもっと活発に行ってもらいたい。
- ・小中学校等で、ボランティア情報が流れてほしい。また、いろいろな企画や考えがもっと流れてほしい。

2 身近な生活課題

(1) 生活の課題と解決の方向

各地域懇談会において、生活者の視点から日々の暮らしの場である地域社会の生活課題を出し合い、課題をグループ化し解決策を話し合いました。

「地域懇談会」「地域福祉計画策定に係る意識調査」「NPO法人・ボランティア団体等へのアンケート」などの実施から出た身近な生活課題を共通するキーワードで要約し、生活課題の具体的な解決の方策を議論してきました。

① 地域懇談会・意識調査・アンケートから出た課題

地域住民の視点から地域の課題を掘り起こすと、子育て・高齢者・障害者支援などの福祉に係わる課題だけではなく、防災、防犯、生きがい、自治会、地域コミュニティの希薄化など、千差万別の課題が浮き堀りになってきました。

また、それぞれ個別の課題が重なり合うケースも含まれ、既存の行政制度やサービスだけでは対応することが難しい課題も存在しています。

地域懇談会・意識調査・アンケートから出た課題

- 地域の輪が崩れている
- 身近に語り合える場がない
- 若い世代が自治会に無関心
- 自治会館の活用方法を検討する必要がある
- 自治会の加入率が減少している
- 自治会の活動内容を見直す必要がある
- 地域の交流が不足している
- 子ども、高齢者又は障害者が日常的に交流する機会が少ない
- 子育て中の保護者が交流できる場が少ない
- 居場所が不足している
- 老人会・子供会の加入者が減少している
- コミュニティ協議会の活用
- 高齢者にできるボランティアの情報提供が必要
- 近所の親しい付き合いがない

キ　ー　ワ　ー　ド

世代間交流

気軽に集える拠点

自治会活動

声かけ（あいさつ）

地域の輪

地域懇談会・意識調査・アンケートから出た課題

- 閉じこもりがちな高齢者、一人暮らし高齢者が心配
- 孤独な高齢者が増加している
- ゴミ出しが大変な人がいる
- 高齢者に地域の情報が伝わらない
- 子育ての悩みなどの相談相手がいない
- 福祉の総合窓口が必要
- 外国籍の人への支援が必要
- 子育てに不安を持っている
- 障害者のいる家庭への支援
- 地域ぐるみの福祉教育
- ボランティアの育成
- NPOやボランティア団体の活動内容等の情報不足
- コミュニティビジネスへの支援
- 障害者とのコミュニケーションが取れていない
- 通学区の学校に障害児学級がない
- 通学の送迎義務の負担が大きい
- 障害を持っている子の学びの場がない
- 子どもが健康的な遊びをしていない

キーワード

地域の支援体制

地域福祉の担い手

NPO・ボランティア支援

コミュニティビジネス

社会資源のネットワーク化

情報の浸透

地域懇談会・意識調査・アンケートから出た課題

- 近所の緊急時の連絡体制がない
- 災害時の連絡・伝達体制が不備である
- 防犯情報が学校やPTAには届くが、地域には届かない
- 個人情報保護の関係で支援が必要な人の安否確認ができない。
- 自治会主催の防災訓練への参加率が低い
- 高齢者や障害者など助けを必要とする人の情報が把握できない。
- 不審者情報の共有化を図る必要がある
- 子どもだけで公園で遊ばせられない
- どろぼうや不審者が多い
- 車中心の道路が多く危険
- 道路と歩道の段差の整備が必要
- 高齢者等を狙ったリフォーム詐欺に注意が必要
- 高齢者や障害者の権利擁護・成年後見制度等の普及が必要

キーワード

防犯体制

防災対策

安心・安全なまち

バリアフリー

